

[Jpn. J. Hosp. Pharm.]
資料
20(4) 309-314 (1994)

トリアゾラム錠 0.25 mg から 0.125 mg へ変更後の
睡眠薬の使用動向と外来患者の反応^{†1}

米澤健三, 菅原泰典, 大貫ひろみ, 阿部 順,
三浦珠緒, 武者栄美子, 石澤文章, 山口 勇
NTT 東北病院薬剤科^{†2}

**New Trend of Hipnotics Given to Outpatients and Their Response
after Changing Triazolam Tablet from 0.25 mg to 0.125 mg^{†1}**

KENZO YONEZAWA, YASUNORI SUGAWARA, HIROMI ONUKI,
JUN ABE, TAMAO MIURA, EMIKO MUSYA,
FUMIAKI ISHIZAWA, ISAMU YAMAGUCHI
Pharmacy Department, NTT Tohoku Hospital^{†2}

(Received July 29, 1993
(Accepted February 8, 1994))

This survey was designed to study the recent trend in hypnotics for outpatients and their response after changing the triazolam tablet dosage from 0.25 mg to 0.125 mg. One hundred and seventy-one outpatients suffering from sleep disturbances participated in this survey, of whom seventy-four were male with a mean age of 67.5 years (range of 32-90 years), and ninety-seven were female with a mean age of 66.9 years (range of 34-89 years). The hypnotics prescribed were: triazolam, zopiclone, estazolam, brotizolam, nitrazepam, flunitrazepam and flurazepam hydrochloride.

Of 91 subjects in the triazolam group, 37 were male and 54 were female. The same interviewer asked about their impression after taking 0.125 mg tablets at the dispensing counter. Although all 91 subjects were initially recruited into this survey, 17 were omitted. Of these 17, eight started taking hypnotics after changing the triazolam tablet from 0.25 mg to 0.125 mg, and nine did not take them at all. Thus, 74 subjects in the triazolam group were considered in the survey analysis. Of the 74, 62 were prescribed half doses, 11 equal doses, and only one female multiplied her dose in comparison with the formerly prescribed dose. Of these 74, 55 showed good responses and they did not express any different feeling between the two kinds of tablets. However, 19 did not receive any hypnotic effect after taking the 0.125 mg triazolam tablet. The interviewer explained the instructions for taking the medication and the side effect of hypnotics to all of them and recommend to some that they consult their doctor. Subsequently, however, he received no information of their reactions to their medication.

Keywords—hypnotics, triazolam, outpatient, hypnotic efficacy, sleep disturbance, patient interview

^{†1} 本報の要旨は日本薬学会第113年会(大阪, 1993年3月)で発表。

^{†2} 仙台市若林区大和町 2-29-1; 2-29-1. Yamatomachi, Wakabayashi-ku, Sendai-shi, 983 Japan

はじめに

我々は先に外来患者の睡眠薬服薬調査を実施し、処方量を薬袋の指示どおりに服用している患者が、男性患者で約42%、女性患者では約31%であり、また睡眠薬を自己管理している患者は男女とも半数を越えていることを報告した¹⁾。その後トリアゾラム製剤の使用上の注意の追加改訂に伴い、当院では1992年3月よりトリアゾラム錠の採用規格を0.25 mgから0.125 mgへと変更した。トリアゾラム錠の低含量錠剤へ変更後の睡眠薬の使用動向と外来患者の反応を調査したので報告する。

調査方法

調査は1992年4月23日より8月11日までの期間を対象とした。睡眠薬の使用動向は処方せんから、服用法とトリアゾラム錠の低含量錠剤への変更に対する外来患者の反応を前報¹⁾のインタビュー方式で調査した。期間中の調査対象患者は男性74名、女性97名であり、その中でトリアゾラム錠を処方された患者は男性37名、女性54名であった。

結果と考察

1. 年代別睡眠薬の服用患者数

睡眠薬服用患者の年代別分布を図1に示した。男性患者の年齢は32歳から90歳で最も多い年代は60歳代(43%)であった。女性患者では34歳から89歳で70歳代が最も多い年代(35%)であった。睡眠薬を服用している男女患者で最も多い年代は前回の調査¹⁾とはほぼ一致していた。

2. 睡眠薬の種類と処方量

図2は男女患者に処方された睡眠薬の種類と処方量で、グラフの左が男性、右に女性の結果を示した。服用睡眠薬の種類の中では、トリアゾラム錠が最も多い。トリアゾラム錠は低含量錠剤に変更になったが、男性患者では50%で前回の調査と変わらず、女性患者では約56%で前回の調査より約7%減少した。その他の睡眠薬ではエスタゾラム錠およびプロチゾラム錠が増加し、ゾピクロン錠およびニトラゼパム錠が男女患者とも減少した。トリアゾラム錠0.25 mgの使用時には、1錠処方が全体の約43%、2錠が5%、半錠は2%であったが、今回の調査では1錠処方が約77%、2錠が23%で、半錠は処方されていなかった。これは低含量錠剤への移行に伴う変化と考えられる。ゾピクロン錠は前回同様男女とも1錠のみの

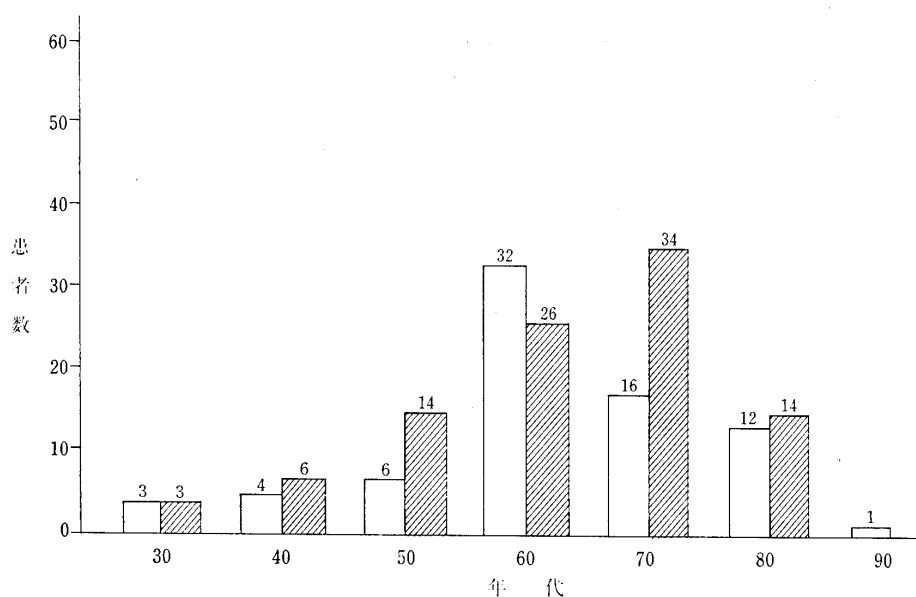


図1. 年代別睡眠薬の服用患者数

□: 男性総計74名, ▨: 女性総計97名

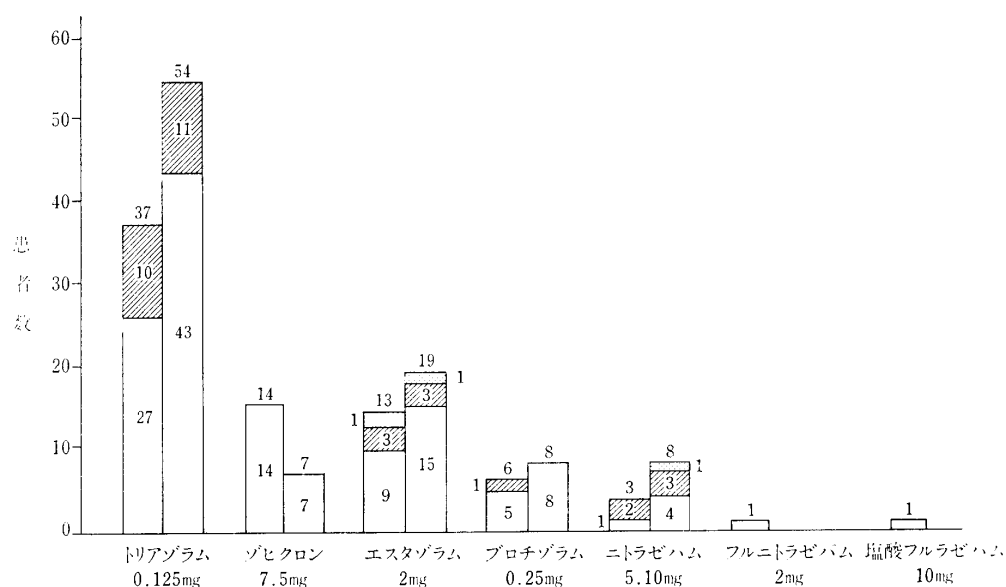


図 2. 睡眠薬の種類と処方量

: 1/2錠, □ : 1錠, ▨ : 2錠, □ : 3錠

左側の棒グラフは男性, 右側の棒グラフは女性を示した。

表 1. 睡眠薬服用患者の併用薬剤数

併用薬剤数		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
患者数	男性	0	3	8 (1)	10	7	10 (4)	7 (5)	9 (3)	8 (4)	5 (1)
	女性	2	15 (2)	7 (2)	12 (1)	11 (1)	14 (2)	6 (2)	11 (6)	8 (4)	4 (3)
	男女合計	2	18 (2)	15 (3)	22 (1)	18 (1)	24 (6)	13 (7)	20 (9)	16 (8)	9 (4)
併用薬剤数		10	11	12	13	14	15	16	計	平均併用薬剤数	
患者数	男性	6 (2)	0	0	0	1	0	0	7.4	5.6	
	女性	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0	0	2 (2)	9.7	5.0	
	男女合計	7 (3)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1	0	2 (2)	17.1	5.3	

() : 外用薬 複数科受診患者 男性 11名 (2科11), 女性 12名 (2科9, 3科3)

処方であったが, 他の睡眠薬では1錠以外の処方もみられた。

3. 睡眠薬服用患者の併用薬剤数

平成4年に多剤投与の場合の薬剤料の算定方法が改定されたこともあり, 睡眠薬を処方された男女患者の併用薬剤数を調査し, その結果を表1に示した。

併用薬剤数では男性患者が1錠から14錠に分布し, 3錠および5錠がそれぞれ10名で最も頻度が高かった。女性患者では睡眠薬の単剤処方が2名

で, 1錠から16錠まで分布した。併用薬剤数では1錠が15名で最も多く, 次いで5錠が14名であった。複数科受診患者では男性11名はすべて2科であるが, 女性では3科が3名で併用薬剤数が多い理由ともなっている。平均併用薬剤数は男性が5.6錠で, この数値は前回の調査と一致し, 女性が5.0錠, 前回は4.9錠であることから現在当院の睡眠薬を処方されている外来患者の平均併用薬剤数を示していると考えられる。

表 2. 患者併用薬の薬効分類

薬効コード 薬 効	男		合計	薬効コード 薬 効	男		合計
	頻度 (%)	頻度 (%)			頻度 (%)	頻度 (%)	
232. 消化性潰瘍用剤	54 (13.0)	52 (10.7)	106 (11.8)	112. 催眠鎮静剤抗不安剤	8 (1.9)	10 (2.1)	18 (2.0)
217. 血管拡張剤	36 (8.7)	51 (10.6)	87 (9.7)	396. 糖尿病用剤	11 (2.7)	6 (1.2)	17 (1.9)
233. 健胃消化剤	28 (6.7)	27 (5.6)	55 (6.1)	225. 気管支拡張剤	11 (2.7)	5 (1.0)	16 (1.8)
114. 解熱鎮痛消炎剤	20 (4.8)	21 (4.3)	41 (4.6)	313. V B 剤	7 (1.7)	9 (1.9)	16 (1.8)
219. その他の循環器官用薬	18 (4.3)	19 (3.9)	37 (4.1)	259. その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	11 (2.7)	3 (0.6)	14 (1.6)
214. 血圧降下剤	15 (3.6)	22 (4.6)	37 (4.1)	317. 混合ビタミン剤	7 (1.7)	7 (1.5)	14 (1.6)
264. 鎮痛鎮痒収斂消炎剤	15 (3.6)	22 (4.6)	37 (4.1)	239. その他の消化器官用薬	6 (1.5)	8 (1.7)	14 (1.6)
213. 利尿剤	15 (3.6)	19 (3.9)	34 (3.8)	339. その他血液・体液用薬	8 (1.9)	5 (1.0)	13 (1.5)
235. 下痢・浣腸剤	12 (2.9)	18 (3.7)	30 (3.3)	391. 肝臓疾患用剤	7 (1.7)	0 (0.0)	7 (0.8)
212. 不整脈用剤	18 (4.3)	11 (2.3)	29 (3.2)	622. 抗結核剤	1 (0.2)	2 (0.4)	3 (0.3)
234. 制酸剤	13 (3.1)	16 (3.3)	29 (3.2)	その他	79 (19.0)	118 (24.4)	197 (21.9)
117. 精神神経用剤	9 (2.2)	18 (3.7)	27 (2.8)	合計	415 (100)	484 (100)	899 (100)
131. 眼科用剤	6 (1.5)	15 (3.1)	21 (2.4)				

4. 患者併用薬の薬効分類

睡眠薬を服用している患者は男女とも高齢者が多いが、併用薬での性差を調査するため薬効分類を試みた。表 2 に患者の併用薬剤を日本標準商品分類による薬効分類とその頻度を示した。併用薬の薬効分類では、男性が59項目に、女性では60項目に分類された。また、男女とも頻度は消化性潰瘍用剤、血管拡張剤、健胃消化剤の順で1位から3位までを占めたが、この頻度の順位は前回の調査と一致した。薬効コードで212, 396, 225, 259 および 391 が女性患者に比較して男性患者の頻度が高かった。不整脈については、新ら²⁾の1年間5000例を越える不整脈出現頻度の調査では、各種不整脈間での性差はあるが、患者総数での差はほとんどなかったことから、対象患者を睡眠薬服用患者に限定し患者数が少なかったために偏った頻度になったと考えられる。糖尿病の有病率の疫学調査³⁾では、報告により差があるが、男性の有病率の高いことが示されている。259では頻尿治療剤の処方により頻度が高くなっており、男性患者の神経性頻尿や慢性前立腺炎が多いためと考えられた。225では男性に多い喫煙が、391では同様に飲酒の習慣が頻度を高くしている理由の一つと思

われた。

5. 睡眠薬服用患者の服用パターン

服用法に関する患者のコメントを6項目のパターンに分類し、その結果を表3に示した。睡眠薬服用患者の服用パターンでは、処方量を薬袋の指示どおりに服用している患者は男性で31名(41.9%)、女性で32名(33.0%)であったが、前回の調査では男性が41.5%、女性が30.9%で前回よりわずかに多くなっている。自己管理による服用で女性が多い点では変化はみられなかった。

6. トリアゾラム錠 0.25 mg から 0.125 mg へ変更後の外来患者の反応と服薬状況

トリアゾラム錠を処方された患者の変更後のコメントをまとめ、その結果を表4に示した。トリアゾラム錠の低含量錠剤への移行に対する患者の反応は、「以前と変りがない」と回答したグループ男女55名(60.4%)と「効かない」と回答したグループ男女19名(20.9%)に分けられた。「変更後も変りがない」と回答した男女55名中、変更前後でトリアゾラムとして等量処方した男女9名で、その他の46名は服用量が実質的に半量または半量以下であった。また「効かない」と回答したグループ19名中、半錠から2錠に増量された女性

表 3. 睡眠薬服用患者の服用パターン

服用法	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
1. 処方量と服用量が等しく、毎晩薬袋の指示どおりに服用・・・・・・・・・・	31 (41.9)	32 (33.0)	63 (36.8)
2. 処方量を減量して毎晩服用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10 (13.5)	13 (13.4)	23 (13.5)
3. 処方量と服用量が等しく時どき服用・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15 (20.3)	18 (18.6)	33 (19.3)
4. 処方量を減量して時どき服用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6 (8.0)	23 (23.7)	29 (17.0)
5. 処方量と服用量が時に等しく、時に減量して服用・・・・・・・・・・	5 (6.8)	3 (3.1)	8 (4.7)
6. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7 (9.5)	8 (8.2)	15 (8.8)
合計	74 (100)	97 (100)	171 (100)

表 4. トリアゾラム錠 0.25 mg から 0.125 mg へ変更後の外来患者の反応と服薬状況

回答	男性患者 (%)	女性患者 (%)	合計 (%)
変更後も以前と変りがない	24 (64.9)	31 (57.4)	55 (60.4)
変更後効かない	6 (16.2)	13 (24.1)	19 (20.9)
変更後に服用開始	3 (8.1)	5 (9.3)	8 (8.8)
まだ服用していない	4 (10.8)	5 (9.3)	9 (9.9)
合計	37 (100)	54 (100)	91 (100)

患者1名、半錠から1錠、1錠から2錠と等量処方2名、その他の16名では処方量が半量または半量以下であった。また「変りがない」と回答したグループでは、ときどき服用している患者が30名、毎晩服用が25名、「効かない」と回答した19名ではときどきが4名、毎晩服用が15名で睡眠薬への依存度が高い患者ほど変更への順応が困難であることが示唆された。「以前と変りがない」と回答したグループでは、「変りがない」または「何も感じない」という共通のコメントの他に、「量の増減より服用したかしないかが問題」、「頭もすっきりしてきたような気がする」、「頭が重く感じ

ていたがなくなった」、「弱くなったと聞いたので安心して服用できる」などのコメントがあった。

「効かない」と回答したグループでは、「以前より早く目を覚ます」、「入眠までの時間が長くなった」、「寝つきも悪く短時間しか効かず、頭痛が残る」、「同じ錠数をのんでも効かないので神経が高ぶる」、「前も今も効かない」などがあった。「効かない」と回答した患者には薬局窓口で変更になった理由を説明し、さらに納得しない患者には医師と相談するように勧めた。

今回の処方せんの調査から、トリアゾラム錠の低含量への移行による使用動向の変化がうかがわ

れた。また、低含量への移行を機に、大多数の外來患者で実質的なトリアゾラム錠の服用量が減少したことから、「使用上の注意」の追加改訂が目的とする安全対策が奏効したと思われる。

ま と め

1. 調査対象となった睡眠薬服用男性患者74名中61名(81%),女性患者では97名中74名(76%)が60歳以上であった。

2. 睡眠薬を処方された全患者中トリアゾラムを処方された患者は、男性が37名(50%),女性では54名(56%)であった。

3. 処方錠数は睡眠薬全体で、男性患者では1錠が57名, 2錠16名, 3錠1名で、女性患者では1錠77名, 2錠17名, 3錠1名, 半錠が2名であった。

4. 睡眠薬服用患者の平均併用薬剤数は、男性患者5.6剤, 女性患者5.0剤であった。

5. 併用薬の薬効別分類では、頻度の高い薬剤は男女とも消化性潰瘍用剤, 血管拡張剤, 健胃消化剤の順であった。

6. 処方量を指示どおりに服用している患者は

全体の36.8%であり、減量して毎晩、ときどき処方量に合わせて、ときどき減量しているなど自己管理している患者は54.4%であった。

7. トリアゾラムの処方量は、多くの患者で低含量錠剤へ移行後半減したが、男性患者の24名(64.9%), 女性患者の31名(57.4%)は「変りがない」と回答し、「効かない」と回答したのは男性患者6名(16.2%), 女性患者の13名(24.1%)であった。

8. 「効かない」と回答した男女患者19名中毎晩服用している患者は15名で、ときどき服用している患者は4名であった。

9. 「変りがない」と回答した患者55名中毎晩服用している患者が25名、ときどき服用している患者は30名であった。

引 用 文 献

- 1) 米澤健三, 山口 勇, 石澤文章, 菅原泰典, 武者栄美子, 三浦珠緒, 大貫ひろみ, 病院薬学, **18**, 667-673 (1992).
- 2) 新 博次, 藤原忠通, 斉藤寛和, 早川弘一, 奥村英正, 日本老年医学会雑誌, **23**, 41-49 (1986).
- 3) 佐々木陽, *Diabetes Frontier*, **4**, 273-281(1993).